

# “真の父母様の御聖誕こそ人類の希望”

## 韓国・天正宮博物館で新年祝賀会を開催

韓国・清平の天正宮博物館で1月7日、「2016 真の父母様主管 新年祝賀会」が行われ、約 250 人が参加しました。日本からは宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長ご夫妻、徳野英治会長ご夫妻をはじめ、合計 32 人の代表者が参加。真のお母様から愛と恵みを受け、新しい決意で 2016 年を出発する貴い機会となりました。(報告 広報局部長 加藤誠也)

日本からの一行は同日午前、「本郷苑」で真のお父様に参拝を捧げたうえで、新年祝賀会の会場へ移動しました。

祝賀会では、真のお母様のご入場後、徳野会長と李現榮家庭連合韓国副会長が花束を贈呈。祝賀のケーキカットに続いて、柳慶錫家庭連合韓国会長が代表報告祈禱を行いました。

次に、韓国、日本、主要摂理機関、世界宣教本部などの代表者が報告を行いました。日本の統一運動については、宋龍天総会長が現状を述べた上で、今後の計画と戦略を発表。また、趙誠一世界本部長が真の父母様の御聖誕日を中心とした記念行事について説明しました。

続いて、真のお母様がみ言を語られ、「真の父母様の御聖誕を一日も早く世界の全ての人々に知らせなければなりません。それが人類の希望です」と強調。また、お母様自らが作詞をされた「ご聖誕慶祝歌」が披露されました。(3面に関連記事)

その後、黄善祚鮮文大学学長の音頭で「勝利」と呼び掛け合いながら乾杯を行い、午餐の時間となりました。

午餐の間には、「天正宮博物館公演チーム」と「アップル・ヘブン」が歌と踊りを披露、会場を盛り上げました。

最後に、宋龍天総会長の音頭で億万歳三唱を行い、閉会となりました。

その後、日本から参加した 32 人のみが真の父母様の特別室に招かれ、真のお母様から今後の天地鮮鶴苑をつくる計画についてみ言を受け、数名の代表者が感想を述べました。

また、全員が心一つにして「サナイ」と「無条件」を韓国語で歌い、お母様に捧げました。



### 【参加者の感想】

#### お母様こそ“人類の真の父母”

企画本部人事部長 勅使河原 秀行

内外の厳しい環境の中で、真のお父様の聖和以降、真のお母様は一貫して救国救世基盤の造成、地上天国の実現を力強く唱えてこられました。そうしたお姿を目の当たりにし、改めてお母様こそ真の父母様であり、人類の救い主であることを再確認させて頂きました。

#### “宝石のような時間”、感謝の思いで出発

高知教区長 石尾 豪志

新年祝賀会の後、真のお母様が日本の責任者を天正宮博物館の3階に呼んでくださいました。お母様の前で公職者の立場で立たせて頂く、宝石のような時間、一生の思い出を持たせて頂きました。感謝の思いで2016年を出発します。今回は、「勝利します」ではなく、「勝利しました」と報告できるように、高知の食口の皆さまと一つになって頑張ります。

#### さらなる成長・前進を決意

摂理機関関係者

新年祝賀会では、全体が明るい雰囲気の中で新しい希望に満ちていると感じました。天一国の実現、全人類一家族理想実現を夢で終わらせてはいけない、その責任は自分自身にあることを自覚させられる集いでした。故郷に帰り、母親に会うという心が自然に湧き上がってきました。これから、いくつもの自分のカラを打ち破り、成長と前進を継続していこうという決意を自然に促された時間でした。

## 新年祝賀会における真のお母様のみ言

# “私たち以外に希望はない”

2016年1月7日 天正宮博物館



①み言を語られる真のお母様 ②日本から祝賀会に参加した代表者

以下のみ言は、1月7日、韓国・清平の天正宮博物館で行われた「新年祝賀会」において、真のお母様が語られた内容を日本語に翻訳し、整理したものです。

\* \* \*

韓国協会、日本教会、天宙平和連合 (UPF)、女性連合、一和、龍平の報告を聞き、希望溢れる2020年に向かい、中断なく発展しようとする決意とその覚悟を聞き、私も嬉しく思います。

私たちが聖書を通して、イスラエル民族が困難な環境を克服しながら、彼らの願いは天が祝福した地・カナンにいつ行けるだろうかと、その一片丹心たる夢をなしていくために、過酷な苦難に耐えて来ました。しかし結局、カナンに入った人々は、ヨシュアとカレブの率いる群れだけでした。ところが、彼らがカナンに入って、根を下ろしましたか？ 結果的に中心を立てることが出来ませんでした。そのようなイスラエル民族に、天はそれでももう一度機会を下さり、独り子、イエス・キリストを送られたのに、責任を果たせませんでした。

そのようなイスラエル民族が今日どのような姿となりましたか？ このことは歴史的な事実としてのみではなく、私たちが深刻に考えるべき問題です。真のお母様によって、蕩滅復帰摂理歴史の終結がなされ、新たな時代、天一国を開いてくださいましたが、定着できましたか？

私たちの行く道は、はっきりとした天の主権、伝道です。それを私たち当代において責任を果たせなければ、過去、イスラエル民族が世界の前に見せた蕩滅の歴史が、私たち

にも訪れるというのです。それ以上に許され難いという話です。真のお母様は皆さんを直接養育、教育されました。祝福家庭として、指導者として、責任を果たすことが出来る場に皆を立ててくださいました。

過去のイスラエル民族とは違います。皆さんは摂理歴史の中心にいるという話です。真のお母様は73億人類の真の父母です。73億の人類は真の父母の子女とならなければならず、民とならなければなりません。天の父母様の願い、真の父母様の願いは人類一家族です。そのためには皆さんがはっきりと決意しなければなりません。日々、皆さんの位置、行跡、実績は発展しなければいけないということです。

気候温暖化の問題により、世界が現実的にとても大変です。ある有名な学者によると、未来の運命は50年にもならないといえます。このままいけば希望はなくなるという話ですが、このような問題を解決するための方法はありません。真のお母様以外には方法がありません。人種問題、宗教問題、国境線問題を誰が解決することができますか？ 国連が解決できますか？ 今まで努力はしましたが出来ませんでした。すべての人々が平和を語りますが、その方法を知りません。どのようにすべきか、分からずにいるのです。私たち以外には希望がないという話です。

遅れた気もしますが、真のお母様の御聖誕を、これからはいち早く全世界人類の前に知らせなければなりません。それが人類の希望です。世界人類がこの日を待ちわび、父母様の御聖誕を祝賀し、希望を持って暮らすその日に向かって、私たちはさらに努力しましょう。

# 真の父母様と永遠に共に生きよう！

## 宋総会長ご夫妻が広島、大阪を巡回



2016年1月、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長ご夫妻は第11地区（広島、山口、島根）と東大阪教区藤井寺家庭教会を相次いで訪問、現地の多くの食口に天の父母様と真の父母様の愛と恩恵を連結しました。

### 一つになれば不可能はない

宋総会長ご夫妻は同16日、2016年最初の巡回地として第11地区を訪問。会場となった広島家庭教会には地区全体から代表メンバー約350人が集まり、大歓迎の拍手でご夫妻をお迎えしました。

オープニングでは、美しいチョゴリで着飾った日韓婦人の合同聖歌隊11人が、韓国語で歓迎の歌を2曲披露。佐野清志第11地区長が昨年の歩みの報告と今年の方針を表明したのに続き、地区内の5教区からそれぞれ一人の基台長が、精誠を尽くして日々歩む中で天から導かれた感謝の証しを行いました。

宋総会長はメッセージの冒頭、実父が山口で勉強をしたことがあるというエピソードを紹介、「きょうは実父と一緒に第二の故郷に来たような思いです」と語りました。

また、宋総会長は「天の父母様が2016年にかけての願いを成して差し上げる11地区となってください。11地区を通して、救国救世の道が強く打ち出されることを願います。『ウリヌンハナダ（私たちは一つ）』を成すならば、不可能はありません。私たちの夢は必ず実現できるのです」と激励しました。

### 絶対“孝”の精神で一つに

翌17日の聖日、宋総会長ご夫妻は、初めて藤井寺家庭教会を訪れ、特別礼拝を行いました。



①第11地区の特別出発式 ②メッセージを語る宋龍天総会長  
③花束を受け取った宋総会長ご夫妻  
④藤井寺家庭教会での特別礼拝

礼拝堂を埋め尽くした140人余りの教会員は、宋総会長ご夫妻を韓国語の挨拶でお出迎え。聖歌隊が聖歌「暗き闇路に」とオリジナル曲の2曲を讃美すると、礼拝堂は聖霊に満たされていきました。

李海玉総会長夫人の愛と癒しのメッセージに続いて、宋総会長が登壇しました。

宋総会長は「お父様が見たい紅葉を見に行き、お父様が草創期に口ずさんだ愛唱歌を歌い、お父様がなしたかったことをすべてなしたいお母様なのです。ご自身の年齢を『47歳』と言われる最近のお母様はとてもお元気で、まさに青年のようでいらっしゃいます」と説明。その上で、「家庭連合時代を迎えて、父母様に絶対“孝”の精神で一つになり、真の父母様の事情と心情そして願いを知って、新しい文化を築き、定着させていく時です」と強調しました。

また、「真の父母様が『一緒に生きよう』と言われるのは、私たちが霊的に成長して三代圏の家庭を完成し、その位置で永遠にともに生きようという意味です。真のお母様は、神氏族メシヤの勝利を通じた救国救世の基盤造成という方向性を明確に示してくださいました。真の愛の実践を身近な所から始めれば、すべての歩みが神氏族メシヤに連結されるのです」と訴えました。

## 2016年・年頭の挨拶

“真の父母様は日本の恩人”、  
国民に真実を証する一年に！

第1地区長

矢吹 恭一



2016年あけましておめでとうございます。第1地区を代表して、昨年の反省と本年の抱負を述べたいと思います。

2015年を振り返るならば、真のお母様は「今年は、青い羊の年だと言われています。青色は清らかで明るく、透明で自然そのままです。羊という動物は、…最も従順で、100%為に生きるのです。…祭物、…自己がなく、…主人に服従と感謝をする」と解説された上で、最後に「世界会長に文善進を任命します。…羊のようです」と語られました。そのみ言を賜り、私たち食口一同は、真の父母様を中心に、真の子女様を代表する文善進様を先頭に、青い羊の精神で出発いたしました。

結果として、2015年は激変の1年でありました。内的な試練として、各個人の信仰、祝福家庭の使命、神氏族メシヤの宿命が問われました。また外的にも大きな変化が訪れ、教会の改革、統一運動の抜本的な改革が推進。そして日本国民に向けては、我が統一運動が救国救世の運動となり得るかどうかを示す1年でありました。

私たちは、青い羊の精神で、感謝で越えることができましたと思います。

その先頭に立たれ、私たち一同を内的・外的に導き、危機管理や変革を進めてくださった宋龍天総会長ご夫妻、徳野英治会長ご夫妻に心から感謝いたします。

本年は、世界平和統一家庭連合の時代を迎え、さらにビジョンを具体化する年です。

私たち第1地区は、家庭の幸せの模範となり、健康な教会の模範となり、国家と世界に貢献する統一運動の模範として、日本の国民に「真の父母様は、日本の恩人である」ことを証してまいります。

天の父母様・真の父母様と  
共に、天一国の花を  
咲かせましょう！

第2地区長

田中 敏明



謹んで、新春のお喜びを申し上げます。

VISION2020 勝利の7年路程の前半3年を超え、いよいよ後半4年路程の出発に向かう時を迎えました。

後半4年路程は、神氏族メシヤを通して救国救世の実質的基盤が飛躍的になされます。

これに対し、天は特別な役事をして下さいました。2015年の8月、御聖和3周年を起点とし、「統一教会」から「世界平和統一家庭連合」への名称変更という、天一国時代における環境創造の奇跡を見せて下さったのです。VISION2020の目指す、「幸せな家庭、健康な教会、国家と世界に貢献する統一運動」と完全に一致するのがこの名称変更であり、ここから日本の未来は大きく開けてゆくことを確信します。

神氏族メシヤ430家庭に向けて、まず氏族に中心家庭が立たなければなりません。家庭が四大心情圏・三大王権を基準とした「愛の訓練場」となる為には、どうしても三世代の基準を目指す必要があります。

第2地区としては、そのような中心家庭を立てる為、家族集いに積極的に取り組み、地域密着型家庭集会や地域集会等に挑戦していきます。

具体的展開としては、教区に1つずつ“モデル教会”の設置を目指します。家庭教会を柱にした書写伝道、サークル伝道、各地域に合った伝道を進めつつ、個人から、世帯、地域への拡大を目指していきます。

1965年2月10日、真のお父様が仙台の地で8番目の聖地を決定して「神と会う所」のみ言を下され、また「天国花仙台」他2つの揮毫を下賜された時から、51年目を迎えます。また、東日本大震災の未曾有の天災から5年目を迎える2016年度、第2地区は天が下さった、「ウリヌンハナダ（私たちは一つ）」のみ言と完全に一つとなって、全食口が神氏族メシヤを通して、救国救世の実質的基盤造成に向かい出発いたします。

## 2016年・年頭の挨拶

救国救世に向かって  
立ち上がる時が到来

第3地区長

五十嵐 政彦



新年、あけましておめでとうございます。

2015年は、責任者や食口の皆さんと共に、天一国の文化を教会に創ろうと歩んだ一年間であったように思います。

毎朝の訓読会で、毎日食口の皆さんから証しをして頂く場が、疎通と共有の基台となりました。大宮駅前で街宣車の上に立って、二世や壮年婦人の皆さんと共に、真の家庭運動を叫びました。

大宮家庭教会で毎月行われる新規礼拝では、春には16人であった聖歌隊が12月には43人になり、新たにバンドも結成し、説教よりも歌を歌うことに緊張しました。

壮年の皆さんが準備して下さいました運動会は、雨の中でも1200人が参加し、教会対抗のパフォーマンスでは牧会者が共に踊り、リレーでは全牧会者がアンカーを走りました。責任者と食口が一つになって歩んだ一年間であったと思います。真の父母様に、責任者や食口の皆さんに、心から感謝いたします。

迎えた2016年は、神氏族メシヤ元年、救国救世元年であります。

真のお父様の聖和から3年の期間を、誰よりも精誠を尽くして下さいました真のお母様と共に、私達が打って出る時を迎えました。

かつて先輩達が国を思いながら歩まれたように、時が巡って、今や先輩も後輩も、一世も二世も、更には霊界に先に行かれた先輩達や私達の先祖達までも、真の父母様を中心に、救国救世に向かって立ち上がる時が来たことを感じております。

今年もよろしく申し上げます。

日本の先頭に立って  
勝利の道を切り開きます！

第4地区長

上條 啓介



新年明けましておめでとうございます。

2015年は、真のお父様聖和3周年の年であり、VISION2020 前半3年目の年でしたが、摂理の先頭に立たれる真のお母様の偉大な精誠と実績によって勝利的に超えた年でした。

第4地区は、2015年の年頭に真のお母様が語られた「青い羊（純粋、従順）」と「オリーブの木（深く根を張る）」をキーワードに、「真のお母様と一つになれば不可能はない。第4地区は日本の屋根、背骨アルプス山脈のある地区。第4地区が勝利すれば日本は勝利する。第4地区から勝利しよう」というスローガンで精誠の限りを尽くした年でした。

新潟、北長野、南長野、群馬の4教区の全責任者と全食口が一つになって、全国の先頭に立って道を切り開いてきた年でした。

2016年はVISION2020 後半4年路程の出発の年。「神氏族メシヤ勝利による救国救世基盤造成」必勝の出発の年です。

4年路程の出発にあたり、日本は昨年末、4回にわたり真のお母様から特別に大きな愛を受け、大きな天運を授かりました。この真のお母様の愛に心から感謝し、願いと期待に応えるために、今年日本はかつてなかった変革と挑戦と前進をしなければなりません。

第4地区は、今年の日本のキーワード「ウリヌンハナダ」を絶えず全体で高らかに唱和し、昨年以上に一つになって、日本の先頭に立ち勝利の道を切り開いて行きます。

今年も宜しくお願いします。

## 2016年・年頭の挨拶

“ウリヌンハナダ”の心情で  
天一国の実体的基盤づくりを

第5地区長  
キム マンジン  
金 満辰



希望と挑戦の年 2016年、あけましておめでとうございます。

昨年は、真のお母様を中心として食口が精誠を捧げて勝利した1000日侍墓生活、さらに聖和3周年式典においては、母の国・日本が忠孝の勝利の花を添えることができ、真のお母様が大変喜ばれたと伺っております。この場をお借りして責任者をはじめ食口の皆様に心より感謝申し上げます。

さて、今年はオリンピックイヤーとしてリオデジャネイロ（ブラジル）において選手の活躍が日本や世界で注目を浴びるでしょう。そして、ポスト“リオ”として、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックへの意識が一層高まる一年となるでしょう。

基元節以降、VISION2020までの7年間は天地完成数の観点からすれば、前半の3年間は天との縦的關係を結ぶ期間とみることができ、後半の4年間は横的実体的基盤を拡大する期間とみることができ、

昨年は真のお母様が聖誕された羊年でした。今年2016年は真のお父様が聖誕された申年になります。天地共の復帰摂理歴史が一巡して、天地創造有史以来、天の父母様が人類に願われた希望と夢を実体的に実現していく天一国奉獻元年と位置付けることができるでしょう。

このような歴史的ターニングポイントとなる2016年を勝利するために、今まで以上に真の愛による伝道と神氏族メシヤ活動推進が願われています。

さらに、地域と国家に証しを立て、「ウリヌンハナダ」の心情で天一国の実体的基盤造成に新たな決意で臨んでまいります。

今年1年の食口の皆様の健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

真の父母様の心情を  
相続し、天一国の  
真の主人となります！

第6地区長  
刑部 徹



新年、明けましておめでとうございます。

昨年は、年頭に真のお母様から「青い羊の年」のみ言をいただき、清い心と羊の如き従順を心がけて歩むように努力いたしました。

しかし神氏族メシヤや73億人類に真の父母様の真実を明らかにしていくことを願われていながらも、殆ど何も出来ませんでした。5大プロジェクトの推進においても、不足で申し訳ないしだいです。

でもその様な中でも、天の父母様と真の父母様を始め、牧会者や婦人代表と食口の皆様に支えられて新年を迎える事が出来たことは、心より深く感謝申し上げます。

故に2016年は、何としても昨年なせなかった全ての道を開いていきたいと決意しています。

しかしその為には、私がかもって成長しなければ出来ません。5大プロジェクトの推進も、私が生まれ変わり成長するならば、開かれると感じています。自らが変われば、その為に必要とされている責任者たちや食口と二世青年たちが、既に準備されているからです。

真の父母様の心情を相続し、僕となって天地人真の父母様と食口の皆様の為に精誠を尽くすることができる自分になれば、神氏族メシヤも73億人類に真実を明かにしていく道も開かれると思っています。

VISION2020の「神の下一家族世界」と「救国救世」を目指し、より一層精進してまいりますので、本年も何卒宜しく願い申し上げます。

## 2016年・年頭の挨拶

天から訓練された精鋭部隊、  
壮年たちを呼び戻そう！

第7地区長  
イ ヒョンソプ  
李 炯燮



新年を迎え、新しい運気を感じます。その中で、救国救世運動という言葉が頻りに聞こえてきています。どれだけ喜ばしいことでしょうか。統一運動は元来、救国救世運動だったからです。

60、70年代の何もなかった時代、私たちは「耳バン」を食べながら救国救世を叫び、活動しました。

その情熱とビジョンに感動した多くの若者たちが、青春をかけて統一運動に参加しました。その結果、冷戦を終息させ、世界平和の基盤をつくり、今日の統一運動の世界的基盤につながったのです。

しかし冷戦の終息と共に、救国救世という言葉も、青春をかけて活動し現在は壮年となった彼らの姿も、教会から消えてしまいました。情熱のある壮年の姿が見えなくなると、息子たちの姿も見えなくなりました。祝福二世の祝福をしようとする、この問題の深刻さを実感するようになります。一言でいうと、今日の統一運動は何か重要なことを失ってしまったということです。

それは、お父さん世代、即ち壮年たちを教会に戻すことです。昨年は、壮年合唱団をはじめとして、壮年修練会、運動会、フェスティバルを通じて、壮年たちが生き生きと活躍しました。

小さな関心と愛で生気を取り戻す姿を見ながら、壮年運動の可能性を感じることができました。壮年たちの役割とビジョンが確立されれば、必ず戻ってきます。壮年たちは、一番純粋な情熱をもって国家と世界のために活動してきた人々であり、天から訓練された精鋭のメンバーたちなのです。

彼らが再び動くためには、本部次元での持続的な関心と具体的なビジョン、全国的な組織の活性化と定期的な教育がなされなければならないと思います。

壮年たちの心が、再び熱くなるならば、統一運動に新しい春が訪れるでしょう。そして、2016年の神氏族メシヤの活動と共に、救国救世運動の新しい道が開かれるのです。

希望と挑戦の年、  
具体的な成果を捧げます！

第8地区長  
小藤田 喜文



新年、明けましておめでとうございます。

昨年は、真のお父様聖和3周年を迎え、真のお母様の精誠の勝利によって新たな決意で、VISION2020に向かって出発した年でありました。

特に昨年の基元節の折、世界指導者総会にて、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長から発表された5つの危機に対して、それを機会に変えて希望プロジェクトとして克服し、VISION2020を勝利する為の具体的な出発をした希望的な年でありました。

第8地区においては、その内容を受け、二世圏のリーダー育成、そして壮年を中心とした救国救世基盤造成へ本格的に取り組み、一步を踏み出した年となりました。

今年は「希望と挑戦」の年として、具体的な実りを感じることが出来るように頑張るつもりです。特に、次の3項目は必ずその成果を天の父母様、真の父母様にお届けする為、食口の皆様と一つとなり取り組んでいきたいと思っています。

第一に、二世圏リーダー育成のため、現状の教育プログラムを強化しつつ、新しい二世圏の教会作りを出発させます。

第二に、救国救世基盤造成に向けて壮年の方々の英知を集結し、具体的な成果を確認できるような基盤を造っていきます。

第三に、特に神氏族メシヤを勝利することができる地域基盤、家庭基盤造成に本格的に取り組み、食口の皆様一人ひとりが希望を感じる一年にしていきます。

以上の3項目は、各教区、教会の責任者、スタッフ、そして、食口の皆様と「疎通と共有」を成し、必ず実りあるものにしていくつもりです。

そして、「ウリヌンハナダ」の精神で天の父母様、真の父母様と一つとなり、総会長、会長、そして本部と一つとなり、希望の未来を切り拓く第8地区にして参ります。

2016年の大勝利を祈りながら、新年の御挨拶を申し上げます。

希望と挑戦の歓声が響き渡る一年に

第9地区長  
ジュ ジュンテ  
朱 鎮台



天地人真の父母様のご聖誕を心より慶賀致します。  
昨年は「文鮮明 天地人真の父母聖と3周年」記念行事の一環として「ピースロード」が開催され、全地球村を熱く盛り上げました。

五大洋六大州の兄弟姉妹が宗教と人種と言語の壁を超え、韓半島の統一と世界平和への願いを自転車に載せ、国境を越えてソウルに向かって走り続けました。

真夏の暑い太陽よりももっと熱い愛と統一の熱望を胸に抱き、「私たちは一つ」と叫びながら力強くペダルを踏みました。

国家も国連も出来ない国際的なピースロードの行事を、かつて真の父母様が主唱された「ピースキング・インターナショナル・ハイウェイプロジェクト」を想起しながら、その理想を実現するため、前に前に走り続けました。

その日の暑かった歓声を蘇らせ、2016年には「神氏族メシヤ」という名札を掛け、救国救世の心情で人・街・国づくりのペダルを力強く踏みましょう。

誰よりも日本を愛された真の父母様の愛と伝統を受け継いで、地域と住民の為に奉仕し、愛し、為に生きる生活をしながら、母の国として選ばれた日本が万世に輝く天一国・日本として生まれ変わり、国運上昇の天運に乗せ、国際社会の模範的な平和大国となるよう、希望と挑戦の烽火を高く上げる一年となることを祈願いたします。

心情を一つに実体基盤を造成しましょう

第10地区長  
イ チョンベ  
李 倉培



また新しい一年が始まりました。  
真のお父様の聖と3周年が過ぎ、基元節も3周年を迎えます。真のお母様は、中断のない前進の先頭に立ち、指揮をとり、摂理の船で航海をされています。その3年間で多くの変化と改革を推進してこられました。

何よりも、数多くの非難と無理解の中でも、天一国の三大柱である三大経典を人類に伝授してくださいました。

また、侍墓精誠の内的な勝利の基台の上で、真のお父様と一体となられ、霊界が近くで役事するという事実を実感するようになりました。

これからは、動けば実績につながるという確信を持って、2016年を出発し、覚悟を新たにしようと思えます。

まず、食口と氏族を教育することは、愛することです。

真のお父様の聖和以降、食口たちが悔い改め、懸命に氏族復帰活動や伝道活動を行ってきたことで、人が訪ねてくる霊的雰囲気造成されました。しかし、残る人が少ないというのが問題となりました。

父母様が生涯をかけて人類を教育されてきたように、教育を通して、氏族メシヤの勝利と救国救世運動の実体的基盤をつくって参りましょう。

二番目に、天一国建設は、たくさんの人材と物資が必要です。渉外が伝道であり、伝道が渉外であるという意識を持って、開放的で、尊敬される組織として生まれ変わり、この世の組織と強い連帯の中で、渉外の基盤をつくって参りましょう。

最後に、2020年は真の父母様聖誕100周年であり、日本でのオリンピックが開催される年です。

神様を迎え、祭祀をすることからオリンピックが始まったように、2020年はオリンピックの根本に戻り、天の父母様と平和の王、天地人真の父母様をお迎えして祭祀を行う神聖な儀式となるように、精誠と活動で実体基盤を造成することができる10地区となりましょう。

真の父母様の愛を胸に、救国救世の基盤づくりに邁進

第11地区長  
佐野 清志



新年を迎え心に残ったメッセージがあります。それは宋龍天総会長ご夫妻を通して与えられた真のお父様のみ言でした。

「私は今もお前を愛しているよ。私と出会って大変苦労したね。お前はまだ私のことを覚えているか？ 私は忘れていないよ。お前に会いたかったよ」

このみ言を聞いた瞬間、私の中にお父様との記憶が蘇り、真の父母様の愛が私の中に流れ込んできました。その場にあった食口も同じだったと思います。同時に真の父母様と地上で共に歩んだ者の使命の大きさを改めて感じさせられました。

我が家庭教会には三つのブランドがあります。真の父母、統一原理とみ言、祝福と聖和の文化です。

昨年は教会を通してこのブランドの質を高めることに努力してきました。

真の父母様の香りのする聖霊に満ちた礼拝、旧約を起点に新約を越えて成約、そして天一国時代と段階的に価値観を高めていく教育、祝福式及び聖和式という人生の重要な節目を天の父母様と共に越えていく文化の創造を目指してきました。今年はさらに良いものにしていきたいと決意しています。

また、複数の食口家庭が一体となって伝道と摂理、及び子女教育と生活において互いに協力する心情共同体を目指しながら、神氏族メシヤ活動を活発化して参ります。

すべてはリーダーを先頭に食口一人ひとりの改革によってなされること。かつて天を愛し国を愛した先人たちの所願を、天の父母様を中心に成就する救国救世の基盤をつくり上げて参りましょう。

神様の下の一家族世界の夢に向かって前進しよう！

第12地区長  
パク ジョンビル  
朴 鍾泌



この世は、船長を失い方向を失っている難破船のように危なっかしく疾走しています。この世が混乱している時こそ、私たちには新しい機会となるでしょう。2016年は、全てが新しく始まる年なのです。

戦後70年の歴史の1ページをめくり、新しく出発する時点に立ち、韓国交正常化50周年が過ぎ、韓日間の歴史問題による葛藤も終止符を打ち、和合と協力で前進しています。真のお父様の侍墓生活3年を経て、新しい出発の1年を迎えています。

2016年の抱負として、

1. 現場に合った氏族メシヤ活動支援体制を確立させます。氏族メシヤ活動を通して、天国定着の基盤を拡大するため、各家庭が氏族メシヤとして勝利することができる支援体制をつくります。
2. 救国救世の基盤を確立させます。世界的な摂理の方向は、南北統一の基盤造成をしていくことです。東アジアに驚くべき変化をもたらす決定的な天運の時を迎えています。父母国家が一つになり、日韓米が一つになり、サタン側の北朝鮮、中国、ロシアを消化する基盤をつくらなければなりません。
3. 日韓トンネル建設の基盤を社会的にさらに拡大させます。昨年12月、8つの県の日韓トンネル現会長団を集め、日韓トンネル実現のための特別協議会をつくりました。その結実を具体的に拡大させ、真の父母様の国際ハイウェイを通じた平和の理想世界を拡大する結実の1年とすることができるよう努力します。

私たちに夢があります。神様の下の一家族として、皆が共に平和に暮らせる世界をつくるという夢です。その夢を実現するのに大きく前進できるよう努力します。

「ウリヌンハナダ」のスローガンを中心として、天地人真の父母様と一つになり、勝利する1年を共に開いていきましょう！

み言と精誠で神氏族  
メシヤの道を歩もう！

第13地区長  
キム ソンナム  
金 成南



愛する食口の皆様！希望に満ちた新年、2016年あけましておめでとうございます。

昨年は、真のお母様を中心として、全世界の統一家は、真のお父様のご聖和から、侍墓生活の精誠3年の最後の年として、真のお母様と一体となり、食口の皆様と大きな精誠を共に捧げることができました。

このような精誠の基台があっただけで、天は真のお父様の聖和3周年の3日前、教会の名称の変更を許してください、世界平和統一家庭連合となることができました。真のお父様が直接役事し、祝福してくださいだったので可能になったのだと思います。

真のお母様もとても喜ばれ、天は神氏族メシヤの使命を成すことができるように環境創造をして下さったと語られました。

2016年は、VISION2020の勝利のために、神氏族メシヤ勝利元年として、救国救世の基盤をしっかりと定着させる年として結実させることができるよう全力投入して参ります。

まず、全ての食口の皆様が天一国の三大経典を毎日訓読し、祈禱会を持つことによって恩恵のみ言が生命創造につながり、豊かな暮らしを送り、その恩恵を親戚や隣人と分かち合える生活となるようにして参ります。

また、私達は皆、必ず430家庭を復帰しなければなりません。その方策として、全家庭が真のお父様の自叙伝書写を毎日毎日実践し、区域別家庭書写会を活性化して参ります。

私たちの未来の顔となる二世を中心とした成和青年会の基盤をつくるための原理教育と信仰教育にも力を尽くして参ります。

そして、壮年部を新しく編制し、原理教育と救国救世教育を通じて社会基盤を成すことができるよう、精誠を投入する2016年となるよう、力を尽くして歩みたいと思います。

私たちは、一つだ！天の父母様と天地人真の父母様と一つとなったとき、そこに勝利と発展、祝福があることを肝に銘じ、謙遜な心をもって最善を尽くします。

天の父母様・真の父母様の  
“夢”を成就させよう！

第14地区長  
ナム ギョントク  
南 昊卓



摂理の重要なターニングポイントを迎える中、去る2015年12月、米ラスベガスに韓日米の摂理的中心国家の指導者たちを呼んでくださり、行事を主管され、私たちにを見せてくださった真のお母様の真の愛の行跡を参考にして、これからの歩みにおいて私たちが持つべき心情と姿勢をまとめてみました。

1番目、真のお母様が下さったみ言の中に全ての摂理の方向性と目標、そして私たちが持つべき姿勢が明確にあります。下さったみ言を訓読し、そのみ意を心に刻み実践すべき私たちとならなければなりません。

2番目に、真のお母様が行かれる道を、皆が一つの心で、一つの方向に和合して行くならば、摂理は必ず勝利することができるということを見せて下さいました。

3番目に、今の時代は、共有と疎通する姿勢で歩まなければならないというメッセージを下さいました。

4番目に、「一つになれば全て成すことができる」というみ言どおりに成されるという奇跡を、私達に体験させて下さいました。

そして5番目として、真の父母様は、私たちの父母として私たちに真の愛と責任を下さり、導いてくださり、勝利させることによって、最終的な親子の関係を享受し、暮らされたい心情世界を今回の期間、改めて感じさせて下さいました。

私たちの前には、たくさんの変化と挑戦が待っています。しかし、私たちが縦的に真の父母様と一つになり、横的に全ての兄弟姉妹が一つになり、ビジョンを持って前進していくならば、必ず勝利の日が来ると信じています。

真のお母様がよく歌われる「愛を探し、人生を探し」の歌の歌詞のように、天の父母様の夢、真の父母様の夢が私たちの夢となり、より近い現実として感じることができるよう、2016年、一つになって成就していくことを、静かに決意しています。

救国救世元年として  
勝利しよう！

第15地区長  
熊谷 栄佐雄



新年あけましておめでとうございます。

昨年は真のお父様の聖和3周年を越え、時を同じくして、その天運によって世界基督教統一神霊協会から世界平和統一家庭連合へと名称変更が行われた歴史的な大転換点に私たちは立ち合いました。

いよいよ今年からは家庭連合時代の出発をなす希望の一年を迎えました。

過去3年間は、宋龍天総会長・徳野英治会長を中心として、古い文化から新しい家庭連合時代を迎える為の新しい文化への大変革の期間でありました。

歴史を通して、文化の変革は多くの血を流し、大混乱の渦の中で新しい芽が出て、花が咲くという経験を人類は幾度もして参りました。

しかし、この3年間、一滴の血を流すこともなく、様々な課題を前にしながらも、真のお母様の指導と精誠の下で、変革の時として総会長・会長のリーダーシップが十分に発揮され、多くの大変革が成されて来ました。

今年はいよいよ天の父母様と真の父母様が願う神氏族メシヤ勝利による救国救世時代元年として出発いたしました。

全国の皆様と共に強く雄々しく立ち上がり、救国救世元年として必ず勝利の年と致しましょう。

今年も宜しくお願い致します。

世界の母の国として  
尊敬される日本に

第16地区長  
ユク テ ホ  
陸 泰昊



昨年1年において、「一つになれば奇跡が起こる」という大きな悟りを得ました。

真のお母様が「ウリヌンハナダ」と日本を祝福して下さったみ言を中心として、全ての家庭が「一つになれば、奇跡が起こる」という信仰で懸命に汗を流しながら昨年1年を過ごし、たくさんの成果と喜びを得ることができました。

「ウリヌンハナダ」という祝福のみ言は、今年も続きます。

天一国のビジョンを成すための救国救世の基盤造成と、神氏族メシヤ活動の元年を宣布した日本の躍動的な挑戦が、驚くべき成果を収めるのは明らかです。

2020年まで全祝福家庭の40日精誠が続き、各家庭を中心として訓読会の伝統と真の家庭の理想を成すための信仰的努力を通して、日本社会に警鐘を打ち鳴らすことができれば、天の父母様を中心とした大家族世界も今に到来することでしょう。

驚くべき天運の時代に私たちがすべきことは、摂理的な天運を絶対的に信じていくことです。天の父母様を信じ、頼り、そして真の父母様のように実践する信仰者となるならば、天の祝福と恩恵で、真の父母様に似た真の愛の代身者となり、世の中を動かす真なる主人となるでしょう。

今年も摂理的な天の運勢は日本の家庭連合にあります。なぜなら、日本はどの民族よりも一つになることを願っており、どの民族よりも一つに団結しているからです。日本は一つです。日本の祝福家庭も一つです。

日本は、天の父母様と真の父母様に対する絶対信仰を守り、世界の母として尊敬される民族となるでしょう。世界を教育する母の国として、日本は誇らしい信仰の母国となるのです。

真のお母様が見せて下さった母としての慈しみ深い愛と偉大さを日本が見習い、お母様のように人類の前に永遠に尊敬される母の国として2016年を出発できたことに感謝し、共に前進しましょう。

# 神氏族メシヤ活動の本格的スタートを

## 徳野会長が北海道、滋賀、鹿児島、沖縄、大阪を訪問



①第1地区の合同礼拝で説教する徳野英治会長  
②沖縄教区の特別集会で  
③鹿児島教区のファミリーフェスティバルで  
④滋賀教区の出発式に集まった教会員  
⑤北大阪教区新北摂家庭教会で開かれた「復興大礼拝」

2016年をスタートした1月、徳野英治会長は、北海道（9、10日）、滋賀（11日）、沖縄（17日）、大阪（24日）など各地を巡回して新年のメッセージを贈り、地元メンバーと交流。また鹿児島では17日、ファミリーフェスティバルで講演し、新規のゲストにも分かりやすく家庭の重要性を訴えました。参加者にとって、今年1年の進むべき方向性を明確化し、勝利を決意する機会となりました。

徳野会長は巡回する先々で、真のお父様の願いを果たすため孤軍奮闘しておられる真のお母様と心情一体化することの重要性を強調。また、自らの氏族伝道の取り組みを紹介しながら、「氏族の中に真の父母様を知らない人がいないようにしなければなりません。受け入れるかどうかは別として、必ず伝えることが大切です」と指摘、神氏族メシヤ活動を本格的にスタートさせようと呼びかけました。

さらに、「神氏族メシヤ活動の基盤の上に、最終的に国家に良い影響を与えていくことができるようにならないといけません」と語り、救国救世基盤の造成を推進していく考えを表明。

そして最後に、徳野会長は「(上記の3つを推進していくための) 秘訣は『ウリヌンハナダ (私たちは一つ)』です。

その精神で、皆が一つになれば勝利は間違いありません」と述べ、集まった食口たちを激励しました。

一方、鹿児島教区が徳野会長を招いて17日に行ったファミリーフェスティバルは、新年会と言えば「家庭連合のファミリーフェスティバル」というイメージをつくることを目指して実施。初めてのゲストも参加しやすく誰でも楽しむことができるよう、エンターテインメントを盛りだくさんにするなど工夫した結果、新規ゲスト260人を含む約900人が参加し、大盛況となりました。

参加者からは、「徳野会長の話を聞いて、(心に)ズシリと来たものがあります。『社会の核は家庭』だということは漠然とは感じていましたが、ズバリと言われて『そうだ』と確信を持つことができました」(市議会議員)、「(講演を聴いて) 家庭や家族愛の大切さを実感し、特に夫婦関係によって良くも悪くもなるとつくづく考えさせられました。エンターテインメントも楽しく、若い人たちの力強さを感じました。最初から最後まで、中身の濃いフェスティバルでした」(新規の女性ゲスト)といった感想が寄せられました。

# “親を想い、子を想う” 心情文化を発信

## 東・西神奈川教区が「Peace Loving Festival」開催



①最後に全体で記念撮影  
②プレオープニングで元気に挨拶する刑部徹第6地区長  
③メッセージを語る刑部徹第6地区長  
④感動的な証しを行った親子三代  
⑤華麗なダンス



1月17日、第6地区の東・西神奈川教区は、青年・学生部を中心に“親孝行”をテーマにした「Peace Loving Festival ～親愛なる、私の家族へ～」を開催しました。「親を想い、子を想う」心情文化創造を目指して、教区や教会、青年部や学生部の壁を越えて創り上げた今回のフェスティバル。エンターテインメントや会場などの各部門がそれぞれ会議を重ね、準備を進めていく中で、部門同士の連携がスムーズにいかなかったり、メンバーでぶつかり合ったりすることもありました。それでも全員が本気で天の父母様と真のご父母様のために投入し、一つのことを成し遂げていく中で、最後は一体化することが出来ました。

フェスティバル当日は、司会を立てず、プログラムも公表しないで、来場したゲストがワクワクできるように演出。青年・学生による劇やダンス、スピーチや合唱のほか、天一国青年宣教師として海外で活躍している女性メンバーが中継を通じ、親への感謝を伝えるシーンもありました。

また、会場での温かい“お出迎え”や、待ち時間にゲス

トが楽しめるようにパネル展示を実施。装飾等も細部にこだわり、「神様のところに帰ってきた家族を迎える心」で準備し、ゲストを歓迎していきました。

親孝行というと「青年・学生が行うもの」と思われる向きが多いかもしれませんが、一世・二世関係なく、全ての人が「天の父母様・真の父母様の前に子女である」というメッセージを伝えるため、青年（子供）から親へ、親から祖父母へ感謝の想いを伝える企画を実施。また、祝福家庭の父母から親（子から見たら祖父母）への手紙、母から娘への手紙を読む時間を持ちました。

親子が、兄弟姉妹が、家族全員が天の父母様と真の父母様の息子・娘として、三世代で真の子女として立っていく姿を伝える試みは、会場に大きな感動を呼び起こしました。

参加者からは、「最初から最後まで感動で涙が止まりませんでした」「希望を感じました。ありがとうございます!」といった声が寄せられました。

# 日本の安全保障のカギ握る沖縄に関心を

## 「第2回香川県平和大使セミナー」開催



①セミナーの参加者 ②竹林春夫「世界日報」社長 ③李倉培・香川県平和大使協議会共同会長

1月17日、「平和大使」約120人が高松市内の会場に集い、「第2回香川県平和大使セミナー」が開催されました。来賓として、地元議員や大学教授、経営者などの平和大使13人も共に参加。竹林春夫「世界日報」社長が、「沖縄問題と政局の展望～夏の参議院選の攻防～」と題して講演を行いました。

その日は、阪神淡路大震災の発生からちょうど21年目に当たる日。開会に先立ち、参加者は6400人以上の犠牲者に対し黙祷を捧げました。

セミナーは、李倉培・香川県平和大使協議会共同会長の主催者挨拶に続き、来賓を代表して議員3人が相次いで登壇。沖縄の問題は日本の安全保障にかかわる重要な内容であり、多くの国民が関心をもつべきだと異口同音に訴えました。

続いて、竹林社長が基調講演を行い、沖縄の米軍基地問題をはじめ、翁長雄志沖縄県知事の過剰な反対行動、沖縄の歴史に言及しながら、沖縄の人々が抱える想いを掘

り下げて解説。「沖縄は本土から遠いということで関心を持ち切れないとは思いますが、沖縄に関心を寄せてください。皆さんが関心をもてば、そこから沖縄は変わります」と熱く語りました。

参加者たちは、「翁長知事がなぜこんなに理不尽に反対をするのか、また基地の反対運動がマスコミとどのように関係して起きているのかが理解できました」「日本の安全保障を考えるうえで、先ず沖縄に関心を持つことが重要であるということが分かりました」といった感想を述べていました。

セミナーの最後には懇親会が行われました。来賓たちは「(統一運動関係者の)まじめで、熱心な姿勢にいつも感心しています。今日は楽しかったです」などと感想を述べていました。

香川県平和大使協議会は、昨年12月から平和大使セミナーを毎月1回開催。李共同会長を中心に、救国救世基盤の造成のため邁進しています。

# 全国の伝道の証し

## “永遠の幸せ”に感動し祝福式に参加

三重教区伊勢家庭教会

王国泰教会長の強い決意のもと、2014年7月に始まった路傍伝道で、Sさん(女性)に出会いました。とても80代とは思えない、綺麗な容姿をされた方です。

アンケートに素直に答えてくださり、さっそく次の日にお礼の電話を致しました。話をする中で、「是非、家に遊びにきてください」と言ってくださいましたので、次の日に訪問することが出来ました。

ご自宅に到着した時、家の前でステキな笑顔で迎えて下さったことが、とても印象的でした。そして、家でお茶を飲みながらいろいろな話を聞き、とても喜んでくださいました。また、パンフレットを見せながら教会を紹介し、セミナーにもお誘いしました。

講演会やセミナーには4回ほど来ていただきました。その後、週に1回、訪問していく中で、タブレット端末を用いて伝道することができるようになり、統一原理の内容と祝福の紹介映像を見ていただく機会がありました。

Sさんは祝福式の映像の中で、「永遠の幸せ」という言葉の響きに感動しておられたので、12月6日の祝福式の話しをしてみました。すると「見学したい」と言われたので、「Sさんも祝福を受けることができますよ」と伝えると、びっくりしておられました。

霊界におられるご主人の話をして、結婚された時の写真を見せていただきながら、亡くなられた

ご主人との永遠の幸せの話をしました。また、夫婦仲が良かったこともあり、霊界があるという話をしたところ、Sさん自身から「祝福を受けます」と、言ってこられました。

タブレット端末に取められた映像には、祝福式に関する説明や既成家庭の証しなどが取められ、ちょうど良い時間で、とてもよくまとまっています。高齢者の方や身体が不自由な方にも、タブレット端末があれば、自信をもって見せてあげることが出来ると思いました。

Sさんは、祝福式に参加された当日、祝賀会の場で、今回祝福を受けられた既成家庭のご主人の証しを聞いて、改めて本当の夫婦の良さを実感し、感動しておられました。とても喜んでこの祝福式に参加して下さったことに心から感謝いたします。

今の時にこのような素晴らしい方に出会わせていただいたことを天の父母様に心から感謝いたします。これからも真の父母様を知らせて、たくさんの方々に愛を与える私になりたいと、心から思いました。

